

1 事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日より平成 27 年 3 月 31 日までの事業概略を項目ごとにご報告申し上げます。

当協会の概況

平成 26 年度の当協会の主な事業として、育英事業、展覧会事業、パブリックアートの普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。

育英事業として「瀧富士基金」奨学生及び「国際瀧富士美術賞」奨学生に奨学金の給費及び貸与を行いました。また展覧会事業として「交通総合文化展 2014」を開催しました。

また、パブリックアート普及事業においては、昨年 4 月から今年 3 月までの 1 年間に旭川空港、鹿児島空港、仙台空港のターミナルビルなど計 7 カ所にステンドグラスや陶板レリーフの作品を設置しました。

当期の特記事項

当期は、3 月に仙台空港ターミナルビル国際線 1 階ロビーにパブリックアートとして漫画家の大友克洋先生の陶板レリーフ作品が設置され、508 作品目となりました。

本年も一般財団法人日本宝くじ協会にパブリックアートの普及事業の助成申請をいたしましたところ 109,080 千円の助成が認められ、パブリックアート 3 作品を設置致しました。

活動状況

当年度の主な活動内容を項目ごとにご説明申し上げます。

I. 公益事業

1. 育英事業

(1) 瀧富士基金

「瀧富士基金」第 48 期奨学生の貸与生募集をいたしましたところ、本年は 59 名の応募がありました。

選考委員会を 8 月 21 日（木）に開き、厳正な審査の結果、35 名の貸与生が新たに決まりました。また、貸与生のうち特に成績優秀な学生の中から貸与奨学金の全額または一部の返還を免除する給費生を 7 名〔全額 3 名・半額 1 名、1/3 3 名〕を選びました。また、貸与奨学金が増額される特待生を 10 名選考しました。

(2) 国際瀧富士美術賞

もう一つの育英事業である「国際瀧富士美術賞」第 35 期奨学生の第一次審査会を 8 月 3 日 (水) に、第二次審査会を 9 月 24 日 (水) に開き、厳正な審査の結果、国内 11 美大 13 名、海外は 6 カ国 9 美大 9 名の計 22 名の受賞者を選びました。また、25 周年を期して制定したグランプリ (滝理事長賞) を引き続いて授与することとし、11 月 10 日 (月) に、東京會館で行われた授賞式において、特に優秀と認められた東京藝術大学の学生にグランプリ、多摩美術大学の学生を準グランプリに選出し、その栄誉を讃えました。

さらに、授賞式に引続き懇親会を開催し、国際瀧富士美術賞を授賞した国内外の学生、指導教員、大学関係者を招待し、文化、芸術交流を図りました。

2. 展覧会事業

(1) 交通総合文化展 2014

「交通総合文化展 2014」を「10 月 14 日 鉄道の日」の関連事業として、10 月 16 日 (木) ~21 日 (火) の 6 日間、JR 上野駅 中央改札口外グランドコンコース特設会場で開催致しました。

「交通文化賞」の創設を記念して 1954 年 (昭和 29 年) に発足した文化展は、本年で 61 回の歴史を刻みました。今年も、「写真」(新日本観光写真展) 及び「俳句」の 2 部門に加え、パブリックアート普及活動特別展として、上野駅のステンドグラス・平山郁夫先生原画・監修の「昭和六十年春・ふる里日本の華」制作ものがたり展も開催しました。

会期中、多くの人に観覧していただき、盛況のうちに無事に終了する事ができました。

同時に開催された日本画、洋画、書の大家、中堅作家の新作展である「溯瀧会」に、日本画家の鈴木竹柏先生(文化功労者)、洋画家の野見山暁治先生(文化勲章)、書家の高木聖鶴先生(文化勲章)など有名作家の作品 35 点を展示しました。

また、日韓親善観光写真展を併設展示しました。

(2) 原宿ファッションジョイボード文化展

JR 原宿駅の大型看板 17 面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「ブレイブサークル大腸ガン撲滅キャンペーン」を平成 26 年 4 月 9 日から 10 月 9 日まで、および福島の魅力を再発見し観光振興へとつなげる「福島ディステーションキャンペーン」を、平成 26 年 10 月 10 日から平成 27 年 4 月 9 日まで開催いたしました。

(3) ルイ・フランセン展

宣教師として来日し、日本交通文化協会が設立したクレアーレ工房（静岡県熱海市）の所長として陶板やステンドグラスを研究し、2010年に亡くなられたベルギー人のルイ・フランセン氏の足跡をたどる展覧会が2014年4月24日から5月20日まで神奈川県湯河原町の町立湯河原美術館で開催されました。フランセン氏は自らの作品制作だけでなく、平山郁夫、小倉遊亀など日本を代表する作家の原画を元にした壁画制作を監修し、日本のパブリックアートの普及に大きな貢献をされました。展覧会では同氏のステンドグラス、陶板レリーフの代表作品をパネルと部分見本、原画で展示したほか、制作の記録写真などで紹介しました。

3. パブリックアートの普及・振興事業

当協会は永年に渡ってパブリックアート作品の制作並びに普及活動を行ってきました。本年度は、仙台空港ターミナルビル国際線1階ロビーに設置した漫画家大友克洋先生原画の「金華童子風神雷神ヲ従エテ波濤ヲ越ユルノ図」が508作品目となり、3月12日の除幕式には宮城県の村井嘉浩知事、国土交通省の本田勝事務次官をはじめ多数の関係者が参加され、盛大に記念式典が行われました。除幕式の後には村井知事、本田事務次官、大友先生、建築家の隈研吾氏の4人が、当協会の滝久雄理事長の司会で特別座談会を行い、東日本大震災の復興とまちづくり、パブリックアートについて活発な議論を展開しました。

(1) パブリックアートの普及・振興

一般財団法人日本宝くじ協会は、公益法人等が行う公益事業への助成を平成26年度も実施することになり、本協会として「平成26年度パブリックアート普及事業」を申請しました。この結果、助成が認められ、次の3箇所にて作品を制作・設置致しました。なお助成額は109,080千円です。

- ① 題 名：「光彩の大地」
- 素 材：ステンドグラス
- 設置場所：北海道・旭川空港ターミナルビル1階
- 作 家：日本画家 福井爽人（ふくい・さわと）先生
- 寄 贈 先：北海道・旭川空港ビル株式会社に無償譲渡
- 委託契約費：37,800千円

② 題 名：「桜島」
素 材：ステンドグラス
設 置 場 所：鹿児島空港国内線ターミナルビル 1 階
作 家：画家 犬童次夫先生
寄 贈 先：鹿児島空港ターミナルビルーに無償譲渡
委託契約費：30,240 千円

③ 題 名：「金華童子風神雷神ヲ従エテ波濤ヲ越ユルノ図」
素 材：陶板レリーフ
設 置 場 所：仙台空港ターミナルビル国際線 1 階ロビー
作 家：漫画家 大友克洋先生
寄 贈 先：仙台空港ターミナルビル株式会社に無償譲渡
委託契約費：41,040 千円

(2) 「くれあーれ にゅーす」

パブリックアートの普及を目的に、本協会とクレアーレ熱海ゆがわら工房を紹介するため「くれあーれ にゅーす」第 10 号を平成 26 年 8 月に発行しました。

第 10 号は、パブリックアート 500 作品完成記念特別企画として、宮田亮平・東京藝術大学学長、隈研吾・東京大学大学院教授、松浦晃一郎・第 8 代ユネスコ事務局長、加藤尚武・京都大学名誉教授、石田義雄・東日本旅客鉄道株式会社監査役、日本画家の堀文子先生、それに菅義偉・官房長官にご出席いただき、滝久雄理事長の司会・進行で「オリンピック開催を機に『文化国家日本』の宣言等について語り合う」をテーマに座談会を催しました。またパブリックアート作品の原画を引き受けていただいた画家やアーティストの皆さんとの思い出を滝理事長が振り返りました。

第 11 号は 7 月に発行予定で、「1 パーセント・フォー・アーツ (One percent for Arts)」を日本で実現すべく、特集を組んでいきたいと思っております。

(3) その他

当協会は、パブリックアート普及及び若手芸術家の育成ために、研究資金を支援しました。

4. 国際交流事業

(1) 新日本観光写真展及び日韓親善観光写真展

この展覧会は、訪日外国人の皆様に日本の文化・芸術や観光地を紹介するため、交通総合文化展に併設、展示しました。

(2) 国際アマチュア・ペア碁選手権大会

第25回国際アマチュア・ペア碁選手権大会は、世界21カ国・地域の代表と国内各地区(8ブロック)の代表32組64名の参加を得て10月25日(土)、26日(日)の両日、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで開催しました。結果は、韓国代表ペアが優勝し、中華台北代表ペアが準優勝でした。

一方、一般参加で人気を博している「荒木杯ハンデ戦」は棋力別3ブロックに分かれ、今年は129組258名が出場しました。

今回は、ベストドレッサー賞の審査委員長にデザイナーのコシノ・ジュンコさんをお迎えし、ベストドレッサー賞の上位3組と、海外特別賞1組を選びました。

なお、本協会は、日本の文化・芸術を紹介する写真パネルを会場に展示し、外国から参加された方に、日本の文化・芸術を紹介しました。

5. その他

藝術アカデミー構想検討委員会

昨年6月から、パブリックアート振興のため「1パーセント・フォー・アーツ」を日本で実現すべく各界識者と意見交換を続け、またクレアーレ工房の将来構想について検討を重ねてまいりました。今後はこの1年目の成果を踏まえ、クレアーレ工房を中心とした芸術文化拠点のさらなる活性化と共に、地域や諸大学などとの連携を深めていきたいと思っております。

II. 収益事業

1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

陶板レリーフ、ステンドグラスあるいは立体作品を主に駅等の公共スペースに設置するパブリックアート作品の制作に対して、各種のコンサルティングを行い収入を得ました。

2. 不動産賃貸業

当財団が保有している工房等(クレアーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房など)の施設を賃貸し、収入を得ました。

以上